

2 全国の自治体に「100歳大学」の設置を推進

① 人生100歳時代に合った教育「100歳大学」

人生100歳時代の到来は、まさに「新しい時代」の始まりといえ、これまで「余生」と考えてきた時間が2倍にも3倍にも伸びるといふことであり、「もう一つの人生」が追加されたといえ捉えることができます。

すなわち、「老いの生き方が問われる時代」に入ったといふことであり、老いについてさまざまな課題と対策を誰もが事前にしっかりと学び、備えられるよう「老い方を学べる仕組み」の構築が必要となってきたといえます。こうした仕組みは、まだ世界のどの国にも事例はなく、初めて人生100歳時代を迎えた日本がパイオニアとして開発し、「老い方を学べる仕組み＝人生の下山の義務教育」として

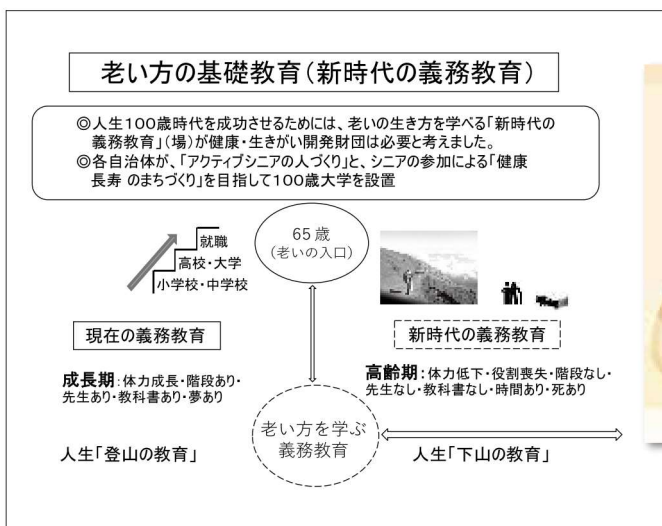
新たに構築する必要があるのではないのでしょうか。その具体的な仕組み、それが当財団が提唱する「100歳大学」構想です。

「100歳大学」とは、人生100歳時代という新しい時代に、長い老いのステージをどう生きるかについて体系的に学ぶ学校であり、将来的には「老いの義務教育」を目指す仕組みです。市区町村が、人生100歳時代に相応しい健康長寿の「人づくり」と「まちづくり」のために設置する、住民のための「老いの学校」といえます。

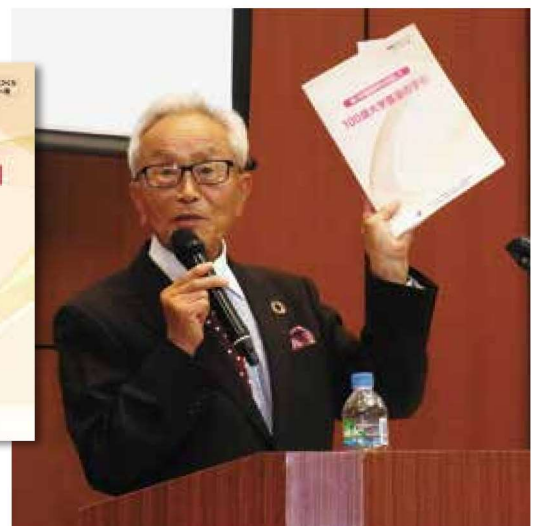
いま全国各地の自治体において、「100歳大学」の考え方をもとに、その設置を目指す動きが始まっています。

「100歳大学」のねらい

1. 人生100歳時代の老いの生き方の基礎、基本を体系的に学ぶ
2. 将来的に市区町村に「老いの義務教育」の導入を目指す
3. 自治体が健康長寿の「人づくり」と「まちづくり」として捉える仕組みの構築を目指す
4. その目指すところは次のとおり
 - ・平均寿命と健康寿命の差の短縮(アクティブシニアの育成)
 - ・健康長寿のまちづくりに活躍できる人材づくり(地域貢献シニアの養成)
 - ・同世代が老いの生き方を学ぶ「仲間づくり」
 - ・各自治体が当面している「地域包括ケアシステム」の3層目の人づくり



「100歳大学」を普及させるための手引書



「100歳大学」提唱者・國松善次氏(元滋賀県知事)による講演